

専徳寺報

第401号

平成25年1月13日発行

浄土真宗本願寺派
専徳寺

専徳寺納骨堂・永代供養墓受付中（パンフレットがお寺にあります）

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

ごしよきほうおんこうほうよう 御正忌報恩講法要

御案内

報恩講とは宗祖・親鸞聖人の年忌法要です。本年最初にして最も大切な行事です。万障くりあわせてお聴聞くださいますようご案内申し上げます。

日時

1月23日(水)	昼1時半～3時半
24日(木)	昼1時半～3時半 夜7時半～9時
25日(金)	朝10時～正午 昼1時半～3時半

講師

23日……… 住職・前任職
24日・25日… 本願寺布教使

溪 宏道師(周南市)

◆お斎料は500円、地区割りは

23日：灘 地区 (11時半～13時)

24日：通津地区 (11時半～13時)

◆園児参拝：24日朝

◆御伝鈔拝読：24日昼座と夜座

宗祖のご生涯を曾孫の覚如上人が書き綴られた『御伝鈔』を拝読します。

◆大速夜と万灯会 24日夜座

宗祖のご臨終を偲ぶ厳肅な法座です。法要総代さんが新しい献灯台を120個準備くださいました。若い方もどうぞお参りください(今号の「如来・人・言葉93」もご覧ください)。

◆仏具回収…ご家庭でご不用となった仏具(お念珠、仏壇の荘嚴具等)を回収いたします。

●お念珠を持参ください。膝掛けをお持ちになると冷えなくて良いと思います。門徒式章、聖典、聴聞カードがあれば持参ください。

●法話中の帳場受付はお休みです。宜しくご協力下さい。

深川和上ご往生

昨年12月7日、深川倫雄和上が享年89歳でご往生され、寺門葬が23日ご自坊でつとめられました。僧俗千名近くが寺内にあふれ、正信偈の大唱和の中に和上をしのびました。

和上の出身寺、大分県玖珠町養専寺の志津里廣由住職より、「和上とみなさんがよばれますので、叔父を和上とよびます…本日はありがとうございます。和上は12人兄弟の末弟、長兄であったわが父よりは18歳年少です。母が亡くなったとき和上は7歳でした。父が亡くなったとき和上は17歳でした。12歳の時久留米の明善寺に小僧に出されました。『…田舎の貧乏寺の口べらしか、なんで俺を小僧に出したか…と親父に聞いてみたかった…』生前よくそう言っておりましたが、和上の学問精進の奥底に早く親と別れた宗祖と同じく親の縁の薄いわが身を重ねておられたのは間違いないとわたしは思っております。『…小僧にいく日、俺を駅まで見送った泣きそうな親父の顔は終生忘れられん』とも言っておりましたが、それは自分のことではなかったろうかと思えます。昭和22年の復員後に龍谷大学に学びましたが、親のない子に学資はなく、極貧の中での勉学は同級生の中の語りぐさとも聞きました。縁あってここ西念寺に入寺しました。爾来50年ご門徒の皆様方にはお世話になりました。『布教で外に出ることが多く、ご門徒には申し訳ないことだった…』ここ数年和上がよく申しておりました。ご門徒のみなさま、お世話になりました」と会葬のお礼、最後に喪主の宣暢住職が、「和上を育ててくださったのはみなさまです。ありがとうございます」と挨拶。

和上の御遺骨にながながのお育てのお礼を申し上げ、小雪舞う西念寺を後にしました。(前任職記)

如来・人・言葉 93

金子みすゞと念仏のこころ

元龍谷大学学長 上山 大峻



みすゞさんの父親、庄之助は彼女が三才のとき、中国で死亡しています。父を失った金子家は、祖母ウメ、母ミチ、長女テル（みすゞさんの本名です）、長男賢助、次男正祐（のちの上山雅輔）の家族でした。家には浄土真宗の家庭がそうであるように、金で飾られた仏壇があり、朝夕、手を合わせて念仏を称えて「お礼」をあげるのが習慣でした。

お仏壇

お背戸でもいた橙も、
町のみやげの花菓子も、
仏さまのをあげなけりや、
私たちにはとれないの。



だけど、やさしい仏さま、
じきにみんなに下さるの。
だから私はいいねいに、
両手かさねていただくの。

家やお庭はないけれど、お仏壇にはいつだって、きれいな花が咲いてるの。それでうち中あかるいの。

そしてやさしい仏さま、それも私にくたさるの。だけどこぼれた花びらを、踏んだりしてはいけないの。

朝と晩におばあさま、いつもお灯明あげるのよ。なかはすっかり黄金だから、御殿のように、かがやくの。

朝と晩とに忘れずに、私もお礼をあげるのよ。そしてそのとき思うのよ、いちんち忘れていたことを。

忘れていても、仏さま、いつもみていてくださるの。だから、私はそういうの、「ありがと、ありがと、仏さま。」

黄金の御殿のやうだけれど、これは、ちいさな御門なの。いつも私がいい子なら、いつか通ってゆけるのよ。

お仏壇に毎朝「ご仏飯」を供え、新しくお花をかえる「お給仕」は、みすゞさんの役目であったということ。何をすることも仏さまのおかげであると感謝するのが真宗門徒の「たしなみ」です。蓮如上人が、廊下に落ちていた紙くずを拾って、「仏法領のものを粗末にしてはいけない」といって、おしいただかれたエピソードに由来する考え方です。私たちの生活を支えるものすべては、もともと「仏法領」、仏さまから恵まれたもので、それを頂いて生活させていただいているのだと感謝するのです。だから町でおみやげにもらった花菓子も、お背戸でもいた橙も、まず仏さまにお供えしてから、その「おさがり」を頂戴するのがしきたりです。みすゞさんが早くお菓子を食べたくて、大急ぎで家に帰って、仏さまにお供えし、すぐにそれを降ろして頂いている姿が眼にみえるようです。

みすゞさんは、朝と晩とに「お礼をあげる」ことが習慣でした。ウメばあさんが、きつとうるさく言って躰けていたのでしょう。この「お礼をあげる」というのは、この地方で「仏さまに合掌礼拝する」ことを言います。他力の念仏往生の教えでは、阿弥陀さまの本願力によって、すでに信心をいただいて浄土往生は決まっています。そうであるならば、私たちが称える念仏は、これからお願ひする念仏ではなく、「お礼」の念仏です。「忘れていても仏さま、いつもみていてくださるの」と、お礼をあげながらみすゞさんは仏さまの眼差しを感じていたのでしょ。みすゞさんの方は忘れていても、仏さまの

方はいつもみずゞさんのことを見ていてくださいます。「いつも仏さまは見ておられるのだよ」という親たちからよく聞かされていた言葉は、いまも私によりみがえります。それが、悲しいときも嬉しいときも、私の支えになっています。みずゞさんもきつとウメばあさんから聞いていたことでしょう。いつも見てくださる仏さまへの感謝の気持ち、みずゞさんにとって「いい子になろう」という励みになっていたことでしょう。

仙崎の古老より、こういう話を聞きました。父親が厳格で、お寺でお説教があるときは、子どもたちもお寺に参らされて、その日に聞いた話を、それぞれ夕食の前に報告させられたというのです。みずゞさんも、きつとウメさんに連れられて、お寺でお説教を聞いたことでしょう。「報恩講」という詩があります。この法要は、浄土真宗のお寺では一番大事な行事です。とくに一月十五日の夜は「大速夜」といって親鸞聖人のご往生の前夜に当たり、一家みんなでお寺に参拝し、夜遅くまで聖人の生涯のお話を聞き、ご苦労をしのぶのです。この行事を仙崎では「お番」と言い、今でもそう言っているそうです。普通の法要では子どもを連れて行くと騒ぐので、とくに夜のお説教には連れて行かないのですが、この「お番」の時だけは、みなお寺に集まって、家に人がいなくなり、子どもも一緒に連れてゆき、この夜だけは遅くまで過ごすことが許されるのです。

報恩講

「お番」の晩は雪のころ、雪はなくても暗のころ。

くらい夜みちをお寺へつけば、とても大きな蠟燭と、とても大きなお火鉢で、明るい、明るい、あたたかい。

大人はしつとりお話で、子供は騒いじゃ叱られる。

だけど、明るくにぎやかで、友だちやみんなよつていて、なにかしないじゃいられない。

更けてお家にかえっても、なにかうれしい、ねられない。

「お番」の晩は夜なかでも、からころ足駄の音がする。

「お番」のときだけでなく、みずゞさんはお説教その他でいろいろ仏教の教えに触れていたようです。矢崎氏の聞き取り調査によると、仙崎では金子家の二階で「歎異抄」の勉強会が開かれていて、その時みずゞさんは、お茶のお給仕などをしていたということです。

寺内だより

み仏にいだかれて「葬儀勤修」

- 10月31日御往生 南町 兼国 久様 (85) 喪主 兼国 常子様
- 11月3日御往生 藤生 小笠原ハルエ様 (90) 喪主 小笠原 博様
- 11月4日御往生 広島 中西 丸一様 (96) 喪主 中西 聰様
- 11月11日御往生 錦見 木戸 英明様 (67) 喪主 木戸 久夫様
- 11月26日御往生 海土路 河村フミ子様 (91) 喪主 河村 廣志様
- 12月2日御往生 浪の浦 沖原八重子様 (69) 喪主 沖原 健二様
- 12月5日御往生 黒磯 藤木 克己様 (88) 喪主 藤木 裕史様
- 12月11日御往生 南町 中崎 計祝様 (99) 喪主 中崎 哲夫様
- 12月16日御往生 黒磯 季廣 行康様 (81) 喪主 季廣 禎真様
- 12月25日御往生 松崎 兼中シツエ様 (97) 喪主 兼中 勲様



●ご恩を偲びて〔法事勤修〕(10月16日～12月)

【通津】谷林光夫様100、故吉兼茂様3、神田隆司様7、木村康弘様7、中田弘子様7・33、村中俊明様3、中崎サチエ様1、田名加秀昭様7・13、山本タミ子様7、廣本サト子様7、杉下満男様17、富井保様17・100、米村良典様7、深井晃様1、西岡明生様33、【保津】上村新様33、畝狭芳彦様100、穴水忠生様100、水上明彦様3・13、開田幸雄様7・100、穴水徳幸様1、穴水輝見様1、【青木】高林雅信様13、佐々辺鉄雄様100、藤本由教様1、村岡由美子様7・7、棚田武人様25、木村勲様1、木村進様25、【黒磯】松本花子様7、米本悦生様50、藤中節雄様7、山元月江様25、宮本義明様50、【藤生】山根洋子様25、藤本静子様1、山中愛子様3、【南岩国】川本幸男様3、【海土路】守岡真喜雄様3、【大藤】篠田ツタエ様150、【市内】古谷悦男様1、山尾文子様3、村岡房江様1、【廿日市】川光匠様25、【北九州】村本章二様17、【東京】蔵重衆治様1

●おめでとうございます

法物下附式(入仏式)

◆10月24日 藤生 野原 誠様
 ◆12月2日 青木 村岡由美子様
 ◆12月14日 平田 菅原 道康様
 ◆12月23日 通津 沖原 健二様
 お給仕の慶び一人に存じます。

●ご報告いたします

法要余香(永代経法要) 11月9・10日

【講師】深野純一師。「生死」について楽しくわかりやくお取り次ぎくださいました。

ついたち礼拝「月のはじまりはお寺から」 2月1日(金)、3月1日(金) 午前9時より45分間

【参詣者】9日…昼座108名・夜座31名、10日…朝座95名・昼座78名。【お供え】藤井則枝、河村アサ子、野原千鶴子。【お鉢米】津村昌弘、半田正昭、吉柴茂、【法要供養はがき】73枚、

【二報謝(通津中)】村重真理子、村井君江、小方麻紀子、村井敏江、多山美寿枝、中柴節子、原多信子、弘中淑子、佐々井尚子、池本紀代子、杉本幸子、静岡照代、白田敬子、村井久子
 () は焼香者

法要総代様、仏婦理事様もありがとうございました。

第34回西本願寺・無量寿堂参拝旅行

(11月25～26日)

西大谷の宗祖の墓所に故人の分骨をし、本山西本願寺の国宝や紅葉の名所(金閣寺)などを拝観しました。【参拝者】

杉田和久、白井由紀子、岸本澄子・岸本美和、蔵重衆治・蔵重いく代・蔵重智浩・蔵重真紀、佐貫健次・佐貫博子、末広美代子、水上三千代、梯本智恵子、村中悟・村中久子、穴水千枝美・穴水孝子・穴水晶子、松村利明、中本絹代・中本吉彦・中本真紀、中本



英明・中本千代子、川島とし子、前住職・前坊守 (27名)

平成24年度在家報恩講(当屋)

【3月】19日保津中講 (村中 実様)
 【4月】2日大藤講 (蔵田サチ子様)
 6日保津上講 (赤崎 耕平様)
 【10月】9日保津穴水講 (岡崎 福美様)
 12日保津沖講 (賀屋 宏昌様)

岩国組総代会研修会 (11月14日)

【参加者】小方茂生、白田尚則、神田隆司、呉田勝彦、村重梯夫、藤重博、村河多丸

専徳寺倶楽部冬の集い (12月19日)

毎年恒例の境内大掃除。雨天でしたが、おかげで本堂の外陣・外縁が大変綺麗になりました。

【参加者】浅井佐、岡崎福美、小方基史、沖原政裕、賀屋国昭、岸井清市、吉柴茂・吉柴恵子、白田憲光・白田敬子、高林宏明、田中稔、半田正昭・半田洋美、藤重秀男・藤重留美子、増本真一・増本美佐江、宮本義明、村岡幹郎、村重親男、村中悟・村中久子、森田幸一・森田京子

